

第 35 回 石西礁湖自然再生協議会 議事概要

日時：令和 7 年 3 月 10 日（月）13：30～16：30

場所：沖縄県八重山合同庁舎 2 階大会議室（web 併用）

Web 会場は WebEx によるウェブ会議システム

■出席者

委員：個人 15 名、団体・法人 16 団体、地方・国の機関 15 団体

計 46 委員、56 名（同一団体からの複数名参加を含む）

傍聴者：8 名（新規参加希望者および取材を含む）

■議事次第

1. 開会
2. 第 10 期新規参加委員の紹介
3. 議事
 - (1) 持続的海域利用ワーキンググループの設置について
4. 報告
 - (1) 環境省自然再生事業の報告
 - ・石西礁湖サンゴ群集モニタリング調査
 - ・石西礁湖サンゴ群集修復試験
 - (2) 部会の活動報告
 - (3) ワーキンググループの活動報告
 - ・りくとうみ WG
 - (4) 委員の取組報告および話題提供
 - ・委員の活動報告（取組共有シート）
 - ・石垣市サンゴ保全庁内連携チームの活動報告
 - ・第 4 回やいま SDGs シンポジウムの開催報告
5. 特別講演
「素晴らしいサンゴ礁を未来へ」 土屋 誠氏（石西礁湖自然再生協議会前会長）
6. 閉会

1. 開会

環境省沖縄奄美自然環境事務所の北橋所長、内閣府沖縄総合事務局那覇港湾・空港整備事務所の宮里港湾空港技術対策官、吉田会長より開会挨拶があった。

2. 第10期新規参加委員の紹介

個人2名、団体・法人3団体が新たに参加を希望し、出席委員の過半数の賛成により承認された。新たな委員は以下のとおりである。

- 個人：荒井 忠行（一般財団法人自治体国際化協会）
北野 裕子（一般財団法人自然環境研究センター）
- 団体：Upside 合同会社
一般社団法人サステナブルアイランド石垣
株式会社フジタ 技術センター

3. 議事

（1）持続的・海域利用ワーキンググループの設置について

和泉委員より「持続的・海域利用ワーキンググループ」の設置が提案され、出席委員の過半数の賛成により承認された。

本ワーキンググループ（以下WG）は、石垣市観光文化課長及び竹富町自然観光課長が代表者となり、行政組織、マリンレジャー事業者団体、観光協会等が構成要員となる予定である。石西礁湖及び周辺海域での持続的・海域利用の実現に向けた戦略立案とその社会実装に向けた関連機関等の横断的・機動的な活動組織となることを目指し、主要な取組として、「石西礁湖自然再生全体構想行動計画2024-2028」における重点項目である「石西礁湖における持続可能な観光利用ガイドラインの作成と活用」の推進を行う。

4. 報告

（1）環境省自然再生事業の報告

・石西礁湖サンゴ群集モニタリング調査

いであ株式会社沖縄支社の石森委員より、環境省が実施する石西礁湖サンゴ群集モニタリング調査結果が報告された。2024年のサンゴ白化現象の影響に関する前回協議会後の結果として、12月のスポットチェック調査では白化率が65.5%、死亡率が25.5%となり、9月調査時（白化率84.0%、死亡率10.9%）と比較してサンゴの死亡率が増加した。調査地点の状況として、長年にわたり生存が確認されていた大型の卓状ミドリイシ類の死亡が確認されたことなどが報告された。その他、サンゴ定着量調査結果などが報告され、石西礁湖では2022年、2024年と大規模白化が連続しており、今後も石西礁湖のサンゴが回復するか予断を許さない状況であるとのことであった。また、参考情報として石垣港および竹富南航路での白化状況（内閣府沖縄総合事務局石垣港湾事務所提供）が共有された。

・石西礁湖サンゴ群集修復試験

一般財団法人沖縄県環境科学センターの岡田委員より、環境省が実施する石西礁湖サンゴ群集修復試験の進捗状況が報告された。本事業では白化現象などの大規模攪乱が発生してもサンゴの回復力を維持するための対策として、幼生供給拠点の整備や高水温適応策などを試験している。今年度は、令和3年度に生産したウスエダミドリイシのひび立て移行試験や、遮光や深場への移動による高水温対策試験などが実施された。石西礁湖での遮光試験では、遮光により白化の進行が少ない地点が見られた。また、7月上旬に崎枝湾の深場へ移動したサンゴは、白化の影響をほとんど受けなかったとのことであった。

(2) 部会の活動報告

今年度第2回（通算第10回）の海域・陸域対策部会、普及啓発・適正利用部会、学術調査部会について、各部会長より活動報告が行われた。

令和7年2月19日に開催された海域・陸域対策部会では、部会の活動に関連する委員の取組の共有や、環境省グリーンワーカー事業、竹富町における循環型農畜産業の推進に関する報告が行われた。また、行動計画重点項目1「陸域負荷の低減」に関する議論が行われた。重点項目の成果指標の1つである下水道および浄化槽の処理人口増加に関しては、ベースとなる数値の収集整理、市下水道課と県保健所の連携事例などが成果として報告され、課題として、浄化槽設置状況に関する台帳が整理中であることなどが挙げられた。また、同じく成果指標である圏内の堆肥生産と利用に関して、畜産農家や堆肥センターの現状把握などが成果として報告された。

令和7年2月19日に開催された普及啓発・適正利用部会では、部会の活動に関連する委員の取組の共有や、「持続可能なマリンレジャー勉強会 in 石垣島」の開催報告が行われた。また、行動計画重点項目2「石西礁湖における持続可能な観光利用ガイドラインの作成と活用」、重点項目3「八重山地域の子どもたちへのサンゴ学習の推進」に関する議論が行われた。重点項目2について、ガイドライン作成の主体となる持続的・海域利用WG立ち上げ（予定）などが成果として報告され、次年度にガイドライン骨子案を作成する計画となっているとのことであった。重点項目3について、今年度のサンゴ学習実施状況などが成果として報告され、次年度はサンゴ学習実施校や講師育成を推進するとともに、既存の海洋学習等にサンゴ学習の要素を取り入れるサポートを行っていく計画とのことであった。

令和7年2月20日に開催された学術調査部会では、部会の活動に関連する委員の取組の共有や、自然再生事業である石西礁湖サンゴ群集モニタリング調査や石西礁湖サンゴ群集修復試験の実施結果に関する報告が行われた。また、重点項目の進捗に関

する情報共有と議論が行われた。令和6年12月17日に開催された学術調査部会作業チームでは、石西礁湖サンゴ群集モニタリング調査で得られたデータの解析について議論が行われた。今後の優先的な検討テーマとして、サンゴ白化が起りやすい場所の特定、大規模攪乱から回復しやすい海域としにくい海域の抽出、石西礁湖のサンゴの種多様性の変化が挙げられた。

(3) ワーキンググループの活動報告

・りくとうみ WG

安元剛委員（北里大学）より、令和7年3月7日に開催された今年度第2回の「陸と海のつながり WG」の活動報告が行われた。WGには約50名が参加し、関心の高さが伺われた。WGでは6名の研究者より、石西礁湖の陸域負荷とサンゴ礁保全に関連する最新の研究や取組が報告された。報告内容は、石西礁湖や黒島の地下水での底質リン成分調査の進捗状況、石西礁湖の海藻中の同位体のモニタリング結果などの研究結果、うるま市における共同堆肥舎設置の取組、石垣島での農地由来のリンの循環に向けた調査分析、八重山のサンゴ産卵ファームの取組などであった。

WGの活動報告と関連し、安元剛委員による底質リンに関する研究内容が紹介された。底質リンが直接サンゴに与える影響に加え、底質の微生物層を変化させることによるサンゴへの影響が明らかになりつつあるとのことであった。

(4) 委員の取組報告および話題提供

・委員の活動報告（取組共有シート）

事務局より、委員より提出された今年度の活動報告（取組共有シート）について報告があった。30委員より報告があり、報告内容は重点項目の進捗報告等に活用された。委員の取組を知ることで今後の連携のきっかけとなることが期待される。

・石垣市サンゴ保全庁内連携チームの活動報告

石垣市環境課の上地委員より、石垣市サンゴ保全庁内連携チームの活動が報告された。サンゴ保全関係者研修などの現場視察、多数の関係団体との意見交換、サンゴ礁保全につながる庁内横断施策としての休耕田活用プロジェクトの提案などが行われた。

・第4回やいま SDGs シンポジウムの開催報告

八重山ローカル SDGs 推進協議会の藤本氏および当銘氏より、2024年11月に開催された「第4回 カープレミア×やいま SDGs シンポジウム」の開催概要が報告された。合わせて、日本 DAO 法を活用し、サンゴ礁保全を価値とする八重山での地域循環共生

圏づくりの構想とアプリ”aniMa”が紹介された。

5. 特別講演

「素晴らしいサンゴ礁を未来へ」 土屋 誠氏（石西礁湖自然再生協議会前会長）

本協議会の初代会長として、2006年より18年間に渡り会長職を務められた土屋氏より、本協議会の将来へ向けたメッセージとして特別講演をいただいた。

講演では、これまでの協議会の歩みとして、初期の意見交換の状況、これまでに策定された計画や石西礁湖の現状を伝える冊子等、2016～2017に行われた取りまとめなどが紹介された。協議会の現状として、設立当初は若手の漁業者と意見交換をしてきたが、最近はそのような機会が得られていないことなどへの指摘がなされた。協議会の今後に対し、以下の3つの提言があった。①より広い情報発信と記録集を作成する ②これまでの議論を総合解析し、再生のための道筋を立て実践する ③サンゴ礁の保全活動を石西礁湖から世界へ発信し、地球環境の保全に貢献する。

講演後、吉田会長よりこれまでのご貢献への感謝状が贈られた。

6. 閉会

中村副会長から閉会の挨拶があった。

以上